

新年明けましておめでとうございます。本年も「Raisers」をご愛顧賜りますよう、よろしく願いいたします。

さて、昨年も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、日本国中、さまざまなイベントが開催できない、あるいは規模を縮小したなどの影響が出ている中、大切なインフラを支える私たちの業界は、安心安全な通信工事を実現するために、安全大会やSKYフォーラムなどをオンラインで効率よく開催するようになりました。オンライン開催の場合、開催日当日だけでなく、後日の動画見直しが可能となり、より多くの方との情報共有が可能で、結果的により多くの方に意識付けをすることができるようになりました。今号に関連記事がありますので、ご覧ください。

一方、昨年暮れより、日本でも新種のオミクロン株の市中感染が増えてきました。再度の緊急事態宣言発令が不安なところです。

疑問に思うのは、コロナに感染する人は1人で2度、3度かかってしまうケースも少なくない中、自分の周囲には直接面識のある人で感染したことがある人が1人もいないことです。運が良かったとも言えますが、マスク着用や不要不急の外出をしない、うがい手洗いの励行等、感染予防対策をしっかりとやっているからなのかもしれません。周囲に感染者がいないのも、類は友を呼ぶで、自分の周囲の人たちも予防対策をしっかりと行っているからではないでしょうか。今後も引き続き、予防対策をしっかりとしていきたいと思います。(Y.H)

JR北海道で特急として使われていた中古の鉄道車両が、タイ国鉄に譲渡された話を耳にしました。日本製の中古鉄道車両は管理が行き届いているため、東南アジア各国では人気が高いそうです。国内においても、JRや大手私鉄の中古車両が地方鉄道で活躍しています。

同様に日本製の自動車の中古車も、東南アジア、アフリカ、ロシア等で人気があるそうです。特にオフロード車は、砂漠やサバンナ、そして北極圏の原野等で走行中に故障して動かなくなると、修理の部品やエンジニアが到着するまで過酷な環境の中で待つことになり、場合によっては命にかかわる話にもなるため、品質が良くて故障が少なく、長持ちする日本車に注目が集まるのは当然です。また、すでに動かないような中古車も交換部品の確保のために多数輸出されています。ただ、残念なことに、盗難車もこのルートに乗ることが多いようで、気付いた時には日本にはないということも起こりうるので、海外における人気車種の場合は用心に越したことがありません。

さて、10年少し前にインドネシアのジャカルタへ行ったとき、なんと東京都バス、日本の会社名の入ったトラックやタクシーが、再塗装や改造をすることなく、そのまま市内を走っている姿に驚きました。当時から業務用の日本製中古車の人気も高かったのです。ただ、何日間かの滞在期間の間に、パケット車等の工事用の車両にはお目にかかったことはありませんでした。もしかしたら、品薄だったのでしょうか。(I.O)

こんな時が危ない!

- 工事繁忙期よりも、終期、特に撤収作業時
- 非常に危険と思われる作業よりも、それほど危険と思われない作業時
- 同一作業が長く続くよりも、1日~2日とか半日、あるいはもっと短時間で終わる作業時
- わかりきった常識的な作業手順を守らない時
- 作業時に積極的な人が、指示以外の作業をした時
- 安全設備を取りつける段取りに取りかかる前
- 教育を十分うけているはずの職長や工事監督がルール無視の行動をした時
- 立入り禁止箇所、危険箇所を承知して、そこへ行った時

Raisers第70巻第1号(通巻第752号) 2022年1月10日発行

■編集 一般社団法人情報通信エンジニアリング協会 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町3-3

Tel. (03) 3464-3211(代) Fax. (03) 3464-3216

■発行所 一般社団法人電気通信協会 〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-1-1 如水会ビルディング6階

Tel. (03) 3288-0608 Fax (03) 3288-0615

(本誌掲載記事の無断転載を禁じます。)